

志津川の漁協の皆さんより

宮城県漁業協同組合 志津川支所

運営委員会 佐々木 憲雄 委員長

2012年は昨年よりタコ漁を行う船も増え、少しずつ活気を取り戻しています。一方で、タコ漁のエサ代は昨年より1枚約100円値上がりしました。エサは冷凍保存しますが、保存する冷凍庫が被災してしまって、遠くの冷凍庫から運んでこなくてはなくなったことが原因です。

大きな船になると1回のタコ漁でエサを50枚積む船もありますので、エサ代の高騰はタコ漁に関わるものにとって大きな問題です。ですから今回「志津川タコ復興プロジェクト」で皆さんから支援していただけたことが大きな助けとなりました。そして全国のこれほど多くの方々が志津川のことを思ってくれていることを知り、感激しております。本当にありがとうございました。



阿部 実さん

(漁師・長栄丸)

ご寄付いただきました皆さん、この度は本当にありがとうございました。

2012年のタコ漁は、前年より量もたくさん捕れたし大きさも質も良かったと思います。でも、エサが値上がりしてしまったことが負担となりました。私の船は大体1シーズン2カ月のタコ漁で、180万円くらいのエサ代がかかるので、今回の支援は本当にありがたかったです。

一口に被災地といっても一人ひとり状況は違います。行政から支援を受けられる人もいれば、受けられない人もいます。だから、自力で立ち上がり前向きに進もうとする人へ向けた今回の支援は、大きな励みになりました。

志津川のタコのおいしさには誇りがありますから、今回色々な人に知ってもらえる機会となって嬉しいです。南三陸町はまだ更地が広がって何も無い状態だけど、皆さんに美味しいタコを食べてもらえるようにがんばって漁を続けます。



震災後漁に出られず、がれき撤去作業の日々が続いたという阿部さん。「海は、漁は、一体どうなってしまっんだ」という焦りが募ったと言います。船が残った阿部さんは星さんと同様、2011年7月に漁を再開させました。

星 勇さん

(漁師・松島丸)

皆さん、本当にありがとうございます。

2012年のタコ漁は、皆さんからの力添えをいただいたことが大きな励みになりました。「漁をがんばることが恩返しだ」という気持ちで漁に出ていました。

漁は毎日の地道な積み重ねが大切です。震災で大変なことがありましたが、毎日諦めないでこれまでやってこれました。2013年のタコ漁も、昨年以上にたくさん捕るぞという意気込みで日々努力していきたいです。

本当は一人ひとりに会ってお礼が言いたいところです。皆さんからのあたたかいメッセージを読んで、本当に感激しました。これだけ多くの気持ちをいただいているながら、こちらからお礼ができないというのはもどかしい気持ちもあります。

もし南三陸へ来る機会があつて「松島丸」と書かれた船を見かけたら、気軽に声をかけてください。ぜひ直接「ありがとうございました」と言いたいです。



震災時は船の上で漁の準備をしていた星さん。地震直後に必死の思いで沖に船を走らせ、船を守りました。2011年7月、がれきが残る海の中タコ漁を再開。星さんに続き、なんとか船を出せる8隻が2011年のタコ漁を行いました。

